

第2章 計画策定の背景

1. スポーツに関する国の動向

平成24年に策定されたスポーツ基本計画では、スポーツを「する人、みる人、ささえる人」に着目し、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境づくりを重視するとともに、「連携・協働の推進」という基本的な考え方が示されました。

平成27年にはスポーツ庁が設置され、これまで複数の府省庁で行っていたスポーツ関連業務や権限が一元化されました。

また、平成29年には、第2期スポーツ基本計画が策定され、これまでの基本計画の方向を引き継ぎつつ、①スポーツで「人生」が変わる、②スポーツで「社会」を変える、③スポーツで「世界」とつながる、④スポーツで「未来」を創るという4つの観点からスポーツの価値を示すことで、「全ての人々が自発的にスポーツに取組自己実現を図り、スポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、きずなの強い世界を創る」ことを基本方針として示されています。

これらを踏まえ、本市においてもスポーツを「する」「みる」「ささえる」の3つの観点を重視するとともに、スポーツに関わる様々な団体・人々との「連携・協働」を図ることでスポーツの推進を図っていく必要があります。

2. 人口減少・少子高齢社会への対応

直近国勢調査である平成27年の日本の総人口は約1億2709万人であり、平成17年と比べると人口は約67万人の減少となっています。この傾向は今後も続くことが予想されます。

本市においても人口減少は重大な課題であります。平成27年国勢調査における市人口は32,075人であり、合併直後の調査時（平成17年）から6,724人の減少となっています。

人口減少を少しでも緩やかにし、年代構成のバランスの取れた住みよいまちづくりのためには、誰もがスポーツに親しみ、健康で文化的な生活を送れる環境をつくることが重要であります。

また、本市における人口構造について、平成27年国勢調査における65歳以上の人口比率が約38.6%に対し、15歳未満の人口比率は約9.4%と合併時と比べても少子高齢化がますます進行しています。

高齢化が進む中、健康で幸せな生活を送るために、スポーツ活動の充実は不可欠です。特に、75歳以上の後期高齢者は自ら移動する手段が限られ、人とのつながりが薄れてくる等、厳しい現状が予想されます。スポーツ活動が身近でできる環境づくりを進めることで身体の健康のみならず、生きがいづくりにも、つながります。

3. 情報化の進展とライフスタイルの変化

情報通信技術の発達により、地球規模の情報発信・交換が可能となり、様々な分野でグローバル化が進展したことにより私たちの生活は大変便利なものになっています。反面、人間関係の希薄化や地域コミュニティ衰退の要因となるなどの課題も現れてきています。

また、食生活の乱れや運動不足などに伴う生活習慣病の増大、複雑多様化する現代社会におけるストレスなどによる健康被害も懸念されています。

こうした中、スポーツ活動の推進は、人間関係づくりや地域活性化、生活習慣病の予防・改善、ストレスの軽減に有効に働くものと期待されます。

また、スポーツを通じたネットワークづくりや情報交換等においては、情報通信機器の特性を理解し、有効活用を図ることが必要であります。

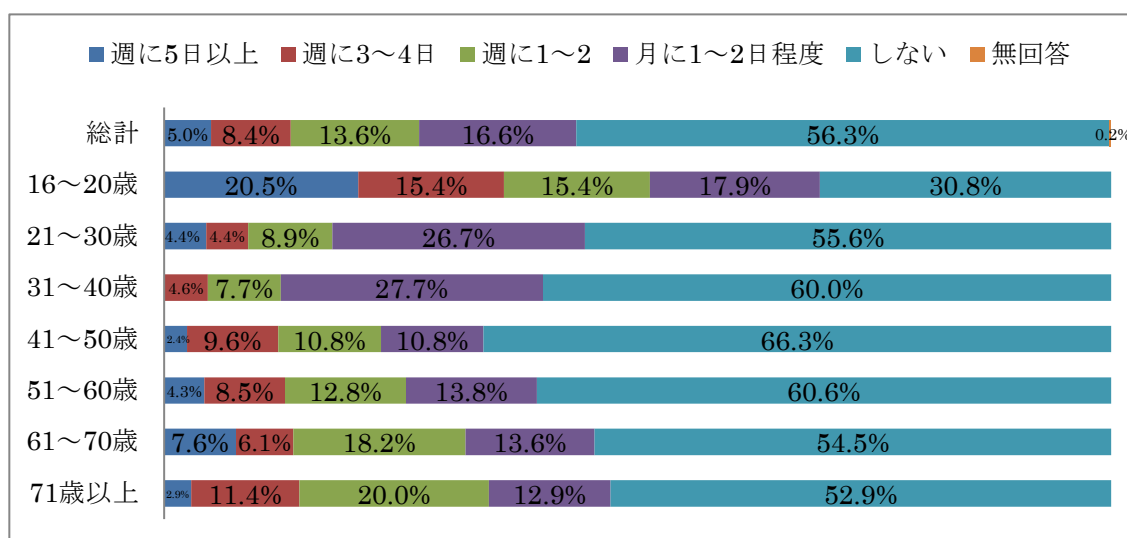
4. 本市におけるスポーツ振興の現状と課題

(1) 生涯スポーツの振興

体育協会加盟の競技団体や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等の活動により、市内全域で多種多様なスポーツが様々な世代に広がっています。また、県内トップチーム等の指導による競技力の向上や市内指導者による教室の開催により生涯スポーツの推進が図られています。

しかし、平成28年度スポーツに関する市民意識調査アンケート(以下市民アンケート)の結果によると、日常的に運動していると回答した人が27%と、52%の全国調査(平成29年度調査)に比べ、かなり低い状況となっています。特に、30~50代のスポーツ実施率が低く、スポーツをしない理由として46%の人が「スポーツをする時間がない」と回答しています。仕事、家事、育児による多忙からスポーツに関わる機会が少ないとも言えます。また、参加者が年々減少したり固定したりしている教室・講習会もあり、誰もが気軽に参加できる開催の在り方については検討が必要です。

《スポーツ実施頻度と年齢とのクロス集計》



(2) 競技スポーツの推進

平成 30 年度の全国大会出場数は、のべ 34 件（32 個人、2 団体）であり、年によって差はあるものの、平成 20～25 年度の総件数の平均値と比べると、平成 26 年度以降の平均値は減少しています。また、平成 30 年国民体育大会に 4 種目 13 名が本市より出場し準優勝を含む活躍を見せるなど、市民に大きな感動を与えました。しかし、多くの選手が学生であり、卒業を機に活動環境を変える場合が多いため、次の世代へ引き継いでいくことが困難であります。今後は、一貫指導体制を含め、長期的な視点に立ったアスリートの育成が必要です。

《世界大会・全国大会出場選手件数》

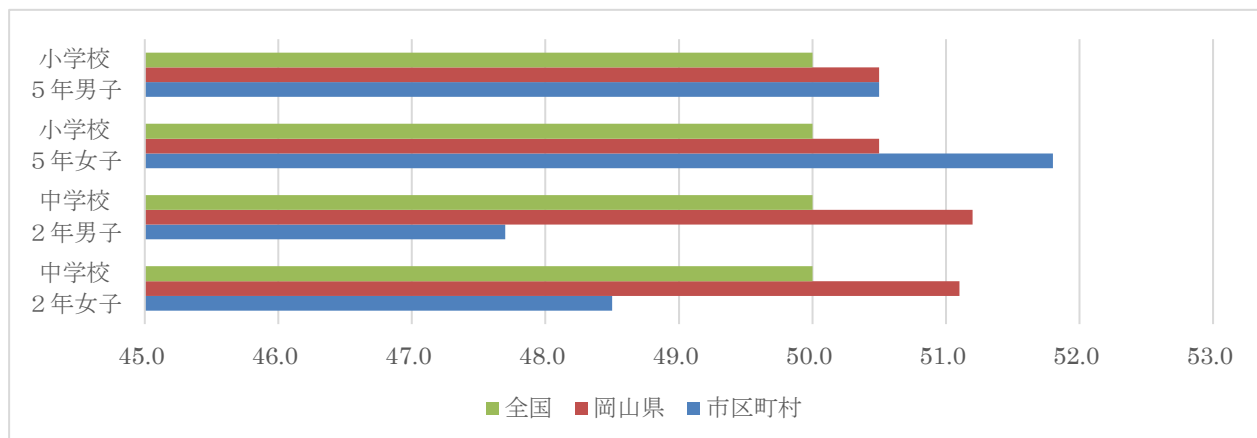
区分	大会種別	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
個人	世界大会	-	5	-	-	1	7	2	4	-	-	-
	全国大会	48	26	37	41	39	42	30	22	31	19	32
団体	世界大会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	全国大会	3	5	4	6	4	5	6	5	7	3	2
総件数		51	36	41	47	44	54	38	31	38	22	34

(3) 子どものスポーツ活動の推進

平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、中学 2 年生の体力測定結果は、男女ともに国や県を下回っています。特に 1 週間の総運動時間（体育の授業を除く）が少ない児童生徒ほど、体力総得点は低く、2 極化の傾向が見られます。

また、少子化により小学生・中学生の体育・運動部活動及びスポーツ少年団活動における活動機会の減少、さらには体力低下にも影響してきます。そのため、複数のスポーツ団体や中学校運動部における合同実施等、活動の工夫による運動機会増加への環境づくりが必要です。

《平成 29 年度体力・運動能力、運動習慣等調査結果（Tスコア）》



(4) スポーツ施設の維持と活用

平成 30 年度現在、市内には 20 の公共スポーツ施設に加え、市内小中学校の体育施設、農村公園やコミュニティ広場等といった地域の拠点となる施設が多く存在し、平成 29 年度市内公共スポーツ施設の利用者数は、243,579 人となっています。しかし、その多くの施設や設備は老朽化が進み、計画的な改築・改修及び維持管理が求められています。

また、市民アンケートの結果によると、居住近くの地域でできる施設整備や初心者向けの教室開催を望む市民が多く、地域コミュニティの発展、また災害時の避難所となることから、スポーツ施設の整備や適正な維持管理が必要です。

《市内公共スポーツ施設 20 カ所の一覧 (H30)》

番号	名 称	位 置	用 途	建築年	平成 29 年度 利用者数 (人)
1	高粱運動公園	小高下町 2-1	陸上競技場兼野球場、テニスコート、弓道場	昭和 55 年	26,930
2	なりわ運動公園	成羽町成羽 1860	野球場、多目的グラウンド	平成 6 年	27,695
3	ききょう緑地	落合町近似 93-1	陸上競技場兼野球場	昭和 39 年	20,531
4	高粱市民体育館	落合町近似 267-7	競技場、格技場、トレーニング室	昭和 55 年	43,096
5	有漢体育館	有漢町有漢 3387		昭和 50 年	12,875
6	有漢総合グラウンド	有漢町有漢 3349	多目的グラウンド	昭和 51 年	14,103
7	神原スポーツ公園	松原町神原 2323-5	野球場、多目的グラウンド、テニスコート、多目的広場	平成 3 年	45,520
8	有漢スポーツパーク (多目的グラウンド、補助グラウンド、)	有漢町有漢 7996-1	多目的グラウンド、補助グラウンド	平成 16 年	12,529
9	有漢スポーツパーク (グラウンドゴルフ場)	有漢町有漢 7996-1	グラウンドゴルフ場	平成 16 年	14,004
10	高粱市民プール	落合町近似 93-1	50m プール、補助プール	昭和 50 年	3,934
11	有漢市民プール	有漢町有漢 3387	25m プール、補助プール	昭和 52 年	639
12	成羽市民プール	成羽町成羽 601	25m プール、補助プール	昭和 48 年	-
13	成羽武道館	成羽町下原 884		昭和 58 年	1,657
14	成羽ミニスポーツセンター	成羽町成羽 2796-4	ビリヤード場、ウェイトトレーニング場、フロアリング場	平成 8 年	1,444
15	川上テニスコート	川上町地頭 1719-2		昭和 56 年	91
16	川上体育館	川上町地頭 1730		昭和 44 年	2,093
17	旧川上中グラウンド	川上町地頭 1730		昭和 44 年	8,817
18	川上夜間照明施設	川上町地頭 1730		昭和 54 年	967
19	用瀬嶽 フリークライミング広場	備中町志藤用瀬 948		平成 5 年	140
20	備中やすらぎの里 (多目的広場)	備中町布賀 3719-1		平成 4 年	6,514
				計	243,579

※本表は、市スポーツ振興課と地域局で管理をしている市内公共スポーツ施設 20 カ所の一覧です。

(5) スポーツを通じた交流・地域活性化

現在、自転車競技大会やマラソン大会等の広域的なスポーツ交流行事や体育協会主催行事も含め、平成 29 年度には市内外から 28,939 人の参加者を集め、交流人口の増加が図られています。また、国内のトップアスリートのキャンプを誘致したり、講師として招いて講習会を開催したりすることで、子どもたちの健全育成や地域活性化にも寄与しています。

しかし、これらの大会等の開催による活性化は限られた地域までしか波及しておらず、市全体を巻き込んだものにはなっておりません。今後も県レベル、全国レベルの大会誘致を図るとともに、市内全体にその効果が波及する工夫が必要です。

《広域的なスポーツ交流行事への参加者数 (H 2 9)》

区 分	参加者数 (人)
1. 3 ライズリーグ (少年サッカー大会・春、夏、冬)	3,280
2. 岡山シーガルズスプリングキャンプ	419
3. 三菱自動車倉敷オーシャンズ軟式野球実技講習会	175
4. 平松政次旗学童軟式野球大会	1,460
5. ヒルクライムチャレンジシリーズ (自転車競技大会)	3,492
6. 愛らぶ高梁ふれあいマラソン	2,827
7. なりわ神楽マラソン	1,192
8. 学童軟式野球成羽大会	760
合計 (A)	13,605

《体育協会主催行事への参加者数 (H 2 9)》

区 分	参加者数 (人)
1. 体育協会主催行事 (19 種目、131 大会) (B)	15,334

《参加者数の総合計 (H 2 9)》

区分	参加者数 (人)
総合計 (A) + (B)	28,939